

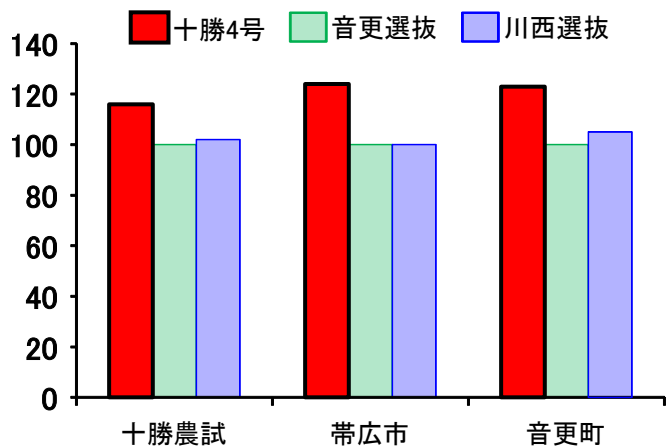
よく太り、よくとれる、ながいも新品種「十勝4号」を開発しました

背景

- ・ながいもは収益性が高く、畑作経営上重要な位置づけにあります。
- ・しかし、暖地に適した植物であるため北海道では収量が不安定であります。

成果

1 地元農業団体と共同で、多収性の新品種「十勝4号」を育成



○ 従来のながいも（音更選抜、川西選抜）より約20%多収。

2 いも径が太く、長さは同等

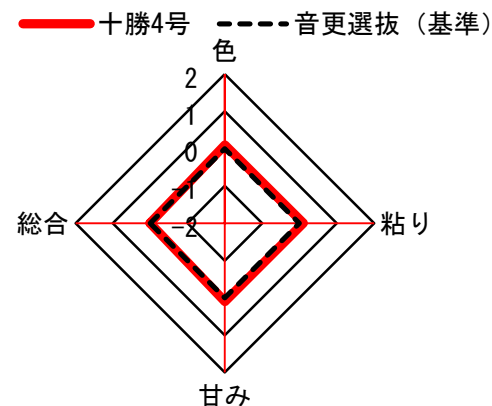
品種	いもの全長 (cm)	いもの直径 (cm)	平均いも重 (g)
十勝4号	59	7.1	1,014
音更選抜	61	6.1	876
川西選抜	62	6.4	942

- いもの直径が約1cm太く、形状が良い。
- いもの長さは変わらないため、収穫作業性などは従来品種と同等。



写真左、上とも、中央が「十勝4号」、左が「音更選抜」、右が「川西選抜」。

3 内部品質、栽培特性は従来品種と同等



- 粘りや甘みなど食味に関わる特性は同等。
- 従来と同様の栽培体系で生産可能。
- 販売・流通上、従来のながいもと同様に扱えます。

期待される効果

- ・収量増により、ながいもの生産振興と生産者の収益アップに貢献。

共同研究機関：十勝農業協同組合連合会、帯広市川西農業協同組合、音更町農業協同組合